

2013年



## 第50回 NIE土曜サロン

# 教員ら現場報告



第50回「NIE土曜サロン」で「笑い」をテーマに意見を述べ合う参加者たち

新聞を授業で活用するNIEについて教員らが学び合う「NIE土曜サロン」が9月28日、50回を迎えた。

2008年からほぼ毎月1回、読売新聞東京本社で実践例を語り合い、情報交換や交流を重ねてきた。この日は約40人が参加し、小・中・高校、大学の各現場からの報告があった。

東京都豊島区立池袋第二小学校の羽賀絹恵教諭は新聞記事やコラムを使い、「子どもの声がうるさい」という意見について、親や地域の人などそれぞれの立場から考える道徳授業の記録を発表。さいたま市立大宮西中学校の小谷野弘子教諭と埼玉県立川越女子高校の佐藤弥生教諭は、各学校でNIEを広めている様子を紹介した。

金山光一・早稲田大非常勤講師は「今、小中高生の活字離れは心配。新聞を素材に対話することで、表現力、思考力など社会で生きる力が身につく」と説いた。主宰の鹿野川喜代美・本紙NIE企画デザイナーが、「笑い」をテーマにしたワークショップも行った。

初参加した、高校で非常勤講師を務める20歳代の女性は「高校時代、書くことを思いつかず、小論文が書けなかった。新聞を読んでいれば、違ったと思う。NIEに積極的に取り組みたい」と話していた。